

1) - 6 巨大災害を見据えたすまいの復興計画のあり方の研究【安全・安心】

研究開発期間（平成 26～29 年度）

〔担当者〕 米野史健

本研究開発課題は、過去災害に関する研究成果や東日本大震災での実態を示す情報・データ、及び現在及び将来の住まいを取り巻く社会的状況を踏まえて、近い将来に巨大災害が発生した場合の住まいの再建過程について想定されるシナリオを検討し、従来型の復興で対応した際の課題を明らかにするとともに、今後のあり方について検討するものである。

本年度は、東日本大震災における災害公営住宅の整備に関して、この 1 年での進捗について資料収集や現地視察等によって新たな情報の把握と状況確認を行うとともに、これまで継続的に行ってきた実態把握の成果も含めて、震災 7 年目までの取組状況と課題について全体的な整理を行った。また、熊本地震において建設された応急仮設住宅に関しても、資料収集や現地視察等によって実態を把握した。